

# 沖縄県うるま市津堅島方言の立ち上げ詞

又吉 里美

## I. はじめに

1. 調査対象地：津堅島は、沖縄本島中南部西海岸の与勝半島の南東約5kmに位置する。平成17年4月1日、具志川市、石川市、勝連町、与那城町の2市2町の合併により「うるま市」が誕生し、それまで、勝連町であった津堅島も沖縄県うるま市勝連津堅と住居表示されることになった。生業は漁業と農業で、特に農業においてはニンジンの栽培が盛んである。本島との交通手段としては、フェリーと高速船があり、1日に10往復している。
2. 調査年月日：2005年8月～10月
3. 話者：神村靖雄（昭和2年生）、恩納トヨ（昭和3年生）、恩納広吉（昭和3年生）、恩納キヨ（昭和5年生）、久志清一（昭和5年生）、緑間鈴（昭和5年生）
4. 調査者・調査場所：又吉里美・それぞれの話者の自宅
5. 調査方法：統一調査票による質問調査
6. 表記方法：①方言事象は音声記号で表記する。②アクセントは高音部に棒線を付す。③詳細や話者の説明は〈 〉で示す。④例文は○印で示す。また、共通語訳における立ち上げ詞の部分は可能な限り、共通語訳を付したが、共通語訳が付しにくいものはカタカナで音声表記をするにとどめた。

## II. 調査結果

### I、自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

#### (1) どっこいしょ。一休みしよう。

Ohage: umaNŋi na jukura./ハゲー（はあ）、ここで休もう。〈[ha:]なども用いられる。ため息のような発声とのこと。〉

#### (2) どうれ。出かけることにしよう。

Ona: he:ku ikugajana./もう、早く行くかな。

Oha: mata ikibarujamuNna./はあ、また行かないとな。

#### (3) よいこらしよ。とうとう山の天辺に着いた。

Ohage: fisaN. ハゲー、着いた。〈[ha: nubuiNŋi ikipusaN.(はあ、登るといって息切れしている。)] という言い方もある。〉

#### (4) しまった。もうちょっとで落ちるところだった!

○?ke: jagati uti:taN?na:./ッケー（あら）、やがて落ちよったな。〈[uti:taN]（落ちよった）の代わりに [ke:ri:tan]（ひっくり返る、転覆するの意味を持つ。転げ落ちるような時に使われる）と言うこともできる。[?ke: jagati ke:ri:taNro:?na.]（ッケー、やがて転げ落ちよったな。）〉

#### (5) くわばらくわばら。恐ろしかった!

○?ke: tsu:ke:ta:ke:./ッケー（あら）、一回二回。〈[tsu:ke:ta:ke:] は共通語では「一回

二回」という言葉にあたるということ。人間は肉体とマブヤー（魂）からなっており、マブヤーは驚いたり恐ろしい目にあつた時に肉体から落ちると言われる。この表現はマブヤーが落ちないようにする呪文のようなもの。[tsu:ke:ta:ke:] と言いながら、胸をたたく動作をする。子どもの場合は一緒にいる人がしてあげる。また、「くわばらくわばら」にあつると考えられる言葉に [kwa:ginuma:ta: kwa:ginuma:ta:]（桑の木の股桑の木の股の意味）があるが、これは雷鳴がひどい時に、雷が落ちないようにと、唱える文句である。）

(6) しめた! 今度の魚は大きいぞ。

○ʃitehja: sarumuN./しめた! やつた!

(7) ままよ。飛び越えるしかない。

○Na: ikkiranribanaraNte./もう、飛ぶしかないな。〈[Nɔ̃i iɔ̃iti tubugaja. (意地出して飛ばう)] という言い方もある。〉

(8) なにくそ! 負けてなるものか。

○haija:gwa: makitinaimi./ハイヤーグワー、負けてなるか。

(9) しめしめ! 誰も気がついていない。

○to: namararu ta:N uraNgisagutu juNna juNnagwa: itʃiNraja:./トー (よし)、今だぞ、誰もいないからゆっくりゆっくり入ってみよう。

(10) ちえっ。つまらないなあ。

○age: hi:busakuna:igana./アゲー (えー)、したくないけどな。〈女性は [age:na] と [na] が付くこともある。また、[hage: hi:baruɟagaja (ハゲー、しないとイケないのかな)] という言い方もある。〉

(11) ちくしょう! 仕返しをしてやる。

○ʃja:hja sugu waNni haruwana:./おまえ、すぐ私にやられるよ。〈[hja] が付属すると、荒い物言い、きつい物言いになる。[ʃja:hja] は、二人称の「あなた」を意味する [ʃja:] に [hja] がついてた形である。〉

(12) くそっ! 覚えている!

○ʃja:hja ubito:kijo./おまえ、覚えておけよ!

(13) おやおや、いったいどうしたの。

○ʃke: nu:saga nafikisue./ツケー (あら) 何したの、泣いて来て。〈[ʃke:] は [aʃke:] や [aʃkekke:] などのバリエーションがある。また、[aʃkekke:] は女性がよく使用するとのこと。〉

(14) えへん、えへん。吾輩は村一番の力持ちじゃ。

○je: NʃiNri NʃiNri uriʃimaNka wa:garu gute:su:haru./イエ (おい)、見てみ、見てみ、この島で私がぞ (私が一番の) 力持ちだよ。〈[to: Nʃukijo] [je waNru NʃiNri] という言い方もある。〉

(15) はてな、ここはどこだろう?

○ʃke: uma ma:natugaja./ツケー (あら)、ここはどこになつてるのかな? 〈男性は [ʃa

ge] [he:N] などということもある。)

## II、他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

(16) はい、承知いたしました。

Ou: wakaibi:taN./はい、分かりました。(年下には [N: wakatahana:] という。)

(17) はい。宜しゅうございます。

Ou: simabiNro:./はい、よろしいですよ。(年下には [i:i: simuwa:] という。)

(18) ええ、ここに居ます。

Oa: kisuiibiNro:./ああ、来てますよ。( [hai umaNka uNro:] でもいい。)

(19) んだ。私の傘です。

ON: ure wa:gamuNjaha:./シー、(うん) ー、これは私のものだよ。

(20) さよう、さよう。あなたの言う通り。

Oi: i: ?ja:ga ?iju:rutuijaha:./そうそう、あんたが言う通りだよ。( [i: i:] の代わりに [t o:] や [to:to:] という言い方もある。)

(21) ほいきた。おやすいご用です。

Oje je wa:ga φu:wa to:./イエ、イエ (おいおい)、私がするよ。

Oto:to: wa:ga φu:wa:./トートー (よしよし)、私がするよ。

(22) よっしゃ。やりましょう。

O?aba φu:me./そしたら、やるか。( [re:] がついて、 [re: ?aba φu:me.] ということもある。)

(23) よしきた。お引き受けいたしましょう。

ON: N: iso:nuna wa:ga φu:wa./シー、シー (うんうん)、喜んで、私がするよ。( [N: N :] の代わりに [o:o:] や [i:i:] とも言う。)

(24) がってんだ。一緒に行きましょう。

Oo:o: maNna ikuwa./オーオー (はいはい)、一緒に行こう。(女性の場合は [i:i: maNna ikuwa.] というように [i:i:] と言う。)

(25) かつぱのへだ。簡単だ。

なし。ただし、『その用事は簡単だ、へっちゃらだ』という場合には次のような言い方がある。

Ouri figutu ru:ja:simuNrujaru. namagwa: nairuφu:ru./この仕事は簡単だよ。今すぐできるよ。

Ouri figuφe: te:ge:ruru./この仕事は簡単だよ。

(26) いえいえ、とんでもございません。

Oje: aNφimari haNti simuigana./イエ (おい)、そこまでしなくていいのに。

O?ke: aNφimari iraNti:simabi:ja.ure ataim:nukuturujaibi:ru./ツケー (あら)、そこまで言わなくてよろしいですよ。これは当たり前のことですから。

(27) なんの、たいしたことではございません。

- ii:N nu:NaraNro./いやいや、何でもないよ。
- (28) なあに、擦り傷(すりきず)ぐらい、すぐ治るさ。  
 ○nu: uppigwa:nu kiḡigwa:rujarumunu nu:araNro:./なあに、ちょっとの傷なのに、なんでもないよ。〈[ma:jamaʃinaN(どこも痛くない)] [nu:NjamaN(何も痛まない)]という言い方などもある〉
- (29) なにさ、いつも調子の良いことばかり言って!  
 ○e:hja ru:nu i:busakatti:ʃi./エーヒヤ (おいこら)、自分の言いたい放題言って。〈[e:hja] の代わりに [nu:hja(何ね)] や [nu:gahja(何かね)] という言い方もある。〉
- (30) いやはや、とんだ目に遭(あ)いました。  
 ○ʔke: aNʃurumi:ni a:ʃi./ツケー (あら)、あんな目にあって。  
 ○ʔke: aNʃirukutuʃi ara./ツケー (あら)、あんなことってあるか。
- (31) へん、勝手にしやがれ。  
 ○hage:na ʔja:katti hi:be./ハゲーナ (はあもう)、あんたの勝手にしなさい。〈[hage:na:j a] という言い方もある。〉
- (32) なめるんじゃねえよ。こいつ!  
 ○ʔja:hja waN use:tuNja./おまえは、私を馬鹿にしてるな。
- (33) 冗談じゃない。口から出任せを言って!  
 ○ʔja:hja i:busakatti:ʃi. ru:katti:ʃi aNʃe to:raNro:./おまえは、言いたい放題言って。自分勝手して、そんなのとおらんよ。○je te:fa:baka:ʃi:hja:./イエ、冗談ばかりして。
- (34) だまらっしゃい。出鱈目(でたらめ)ばかり言って!  
 ○je damaʃukibe jukuʃimunibaka:ʃi:./イエ (おい)、だまっておけ、冗談ばかりして。
- (35) そうは問屋がおろさねえ。黙っていらねえ。  
 なし。ただし、「相手の言葉に反対して、こちらの意見を言うとき」には次のような言い方がある。  
 ○na: ʔja:ga isuru kutubaNka na: gattiNnaraN./もう、あんたがいう言葉に、もう合点できない。  
 ○nu:ga ja:ga i:hje./何か、あんたが言うのは。
- (36) うそもへちまもありやしねえ。我慢(がまん)できねえ。  
 なし。ただし、「でたらめを言うな、と怒って」言うときには、次のような言い方がある。  
 ○nu:jaruba:ga: juruʃeukaNro./何かその態度は、許さんよ! ○ḡuNni ʔja:ga kuʃikara N ḡaʃaru kutubarujare./本当にあんたの口から出した言葉か?
- (37) 寝言は寝ていえ。このやろう。  
 なし。ただし、『出鱈目だ、間違いだ』の意味で、「喧嘩腰」になったときには次のような言い方がある。  
 ○ʔja:ga i:je kikaNmunu na:./あんたが言うのは聞かないのに、もう。
- (38) あたりきしやりきのけつ(けつ)のあな。当たり前だ!

なし。ただし、「当然だ、当たり前だ、と相手の言葉に反撥」するときには次のような言い方がある。

○?ja:ga i:je ɕuNnijaha./あんたが言っていることは本当さ。○nama isaru kutuba ataim e:arane./今言った言葉は当たり前じゃないか。

(39) きみようきてれつだ。それは変だ。

なし。ただし、「俄には信じ難く、疑わしい話の場合」には次のような言い方がある。

○?ja:ga i:je jukufimuni araNje./あんたが言うのは嘘じゃないか? ○ɕuNnijame.gattiNnaraNiga./本当か? 合点いかんけど。

(40) ほほう、それは親孝行なお子さんですね。

○?ke: itta:warabe: jakarajaha:./ッケー (あら)、あんたたち子どもはしっかり者だね。  
(男の人は [?ke:] ではなく、[?o:] ということもある。)

(41) まいったまいった。しかたがない。

○hage:na isaɕu:gaja:na./ハゲーナ (はあもう)、どうしようかね。<[isaɕu:gaja:na] は「どうしようもないね」というニュアンスを持つとのこと。>

### Ⅲ、他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

(42) もしもし、すみません。役場はどこにありますか。

Ona buri:jaibi:gate jakuba ma:Nka aibi:ga nara:fikiNso:ri./ナ (あの)、すみませんがね、役場はどこにありますか、教えてください。

(43) のうのう、旅の人。お立ち寄り下さい。

Oje je ma:kara jeNso:ga ifiimaNso:ribe:./イエイエ (おいおい)、どこからいらしゃったの? 入っていらっしゃいな。<また、男性なら [je ni:saN]、女性なら [je ne:saN]、子どもなら [je warabi:] と人称名詞で呼びかける言い方もある。>

(44) ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。

Oje: NfiNribe: amaNka a:fi bina:nu a:ha./イエ (おい)、見てごらん、あそこに公園があるよ。

(45) やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ?

Oje ?ja:me aNpe:kuna ma:fi ikuga./イエ (おい)、あんたはこんな早くにどこに行くの。  
<目の前にいたら [je]、少し遠く離れていたら [jeje] と言う。>

(46) よう、兄弟。これから何をするつもりだい?

Oje ?ja:me namakara nu:ɕuNfi jaga./イエ (おい)、あんたは、今から、何するの。

(47) いざ、さらば。

なし。別れるときには、[mataja:./またね。] という。

(48) ささ、ご遠慮無く、召し上がって下さい。

Oto:to: ma:harumuNaibiraNiga misoiNso:ri./トートー (さあさあ)、おいしいものではありませんけど、召し上がってください。<友人など親しい人の場合は [to: kamibe je (トー、食べなさい、イエ。)] などの言い方がよく聞かれる。>

(49) さて、そろそろ一服しませんか。

Ore: ife: jukura:./さあ、ちょっと、休もう。(また、仕事が一段落したときに、次の仕事をする前に少し休もうというときには、[to: re: ifigwa: jukura./トー (よし)、さあ、少し休もう。] というように [to:] をつけることがある。

(50) これこれ、ちょっと静かにしなさい。

Oje je ifigwa: damatfukibe./イエイエ (おいおい)、ちょっと、だまってなさい。

(51) おい、こら。万引きをしてはいけない。

Oje: f: numuN tuine naraNro re:qiro:./イエ (おい)、人のものどつたらいけないよ、大変だよ。〔je:hja〕というとき [je:] より強い物言いになる。

(52) おどりゃあ。いい加減にしなさいか!

O?ja:hja f'asai fiN kikaNrure./おまえは、何度言っても聞かんのか! (いい加減にしなさいというニュアンスがあるとのこと。)

Oje u:maku ane haNro:./イエ (おい)、わんぱく坊主、こんなしないよ。(〔je u:makuh ja〕というとき [je u:maku] より強い物言いになる。また、[ja u:makuhja] というときもある。)

(53) おのれ、裏切りやがったな。

O?ja:hja waN use:ti./おまえは、私を裏切って!

(54) どっこい。その手には乗らない。

なし。このような場合は、押し売りを断る表現がすぐにでる。

Oii:N watta: a:gutu na fimuNro:./いやいや、私たちはあるから、いいですよ。

Ona: watta: maNru:gutu ko:raNro./もう、私たちはたくさんあるから、買いませんよ。

(55) どうだ、参ったか?

Ona:na: to: wabihi:be./ナーナー (もうもう)、トー (ほら)、謝れ!

Oto: na: wabihi:be na./トー (ほら)、もう謝れ、ほら。

(56) せいの、よいしょ!

Ohaija:gwa pisagira./ハイヤーグワ (よいしょ)! 引こう。

(57) ようい、どん!

Ojoti toN./ヨーイ、トン! (挙げている手を下におろす動作を伴う。)

(58) いっせいの、で!

Ohaija:gwa. Nnafi pisagira./ハイヤーグワ (よいしょ)! みんなで引こう。

(59) よいしょ、よいしょ、もう一息だ!

Ohaija:gwa na:ifigwa:rujaru./ハイヤーグワ (よいしょ)、もうちょっとだよ。

(60) うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。

Ohaija:gwa na:ifigwa:rujaru./ハイヤーグワ (よいしょ)、もうちょっとだよ。

(56)(58)(59)(60)は典型例であり、動作や状況によって、様々にかかわること。

Ohaija:gwa.ハイヤーグワ。(物を持ち上げるときに使う。)

Ohaija:gwa: hai hai.ハイヤーグワー、ハイ、ハイ。(物を持ち上げて運ぶとき。)

- jeijasa: jeijasa:。イエイヤサー、イエイヤサー（物を引くとき。）以上のように、動作によって、表現が異なるとのことである。）
- (61) わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。  
 ○wafʃo:i wafʃo:i./わっしょい、わっしょい。〈ただし、御輿を担ぐ風習はない。この表現は、子どもたちが綱引きするときに、綱引きの綱を勝負場所まで運ぶときのかけ声として言っていたとのことである。ちなみに、綱引きのときのかけ声は [hai sa: sa:] [jeijasa: jeijasa:] などである。〉
- (62) はじめはぐう、じゃんけん、ぽん! あいこでしょ。  
 ○hai bu:sa ha:re hai./はい、じゃんけんするよ、はい! 〈「bu:sa」は「虫拳」にあたると考えられる。親指、人差し指、小指を用いる。それぞれの強弱関係は次の通りで、<sup>1)</sup>親指>人差し指、人差し指>小指、小指>親指、となる。子どもの遊びのほか、酒の席での賭（負けた人が酒を飲まされるという勝負）として、使われていたようである。また、女性よりは男性の遊びであったらしく、同世代でも、女性は分からない人が多い。〉
- (63) きをつけえ、まえへならえ、なおれ。  
 ○kiotsuke: mae:narae naore./きをつけえ、まえへならえ、なおれ。
- (64) きりつ、れい、ちゃくせき。  
 ○kiri:tsu re: tʃakuseki./きりつ、れい、ちゃくせき。
- (65) ばんざい、ばんざい。やった、やった!  
 ○banza:i banza:i rikafaN rikafaN./ばんざい、ばんざい。やった、やった。  
 ○ukina: makafaNro: banza:i/沖縄勝ったよ、ばんざい。
- (66) えいせいおう。頑張るぞ。  
 ○hija: ei./ヒヤー、エイ!
- (67) 中村君の誕生日を祝して、かんぱい。おめでとう。  
 ○sakaʃiʃi kamijabira./杯をいただきましょう（頭上におしいただく）。〈杯を頭の上にあげる動作を伴う。〉  
 ○karata niNgwaNhabira./健康を願いましょう。〈祝いの席で、乾杯時に [kari:] という表現をよく聞くが、本来は使わないとのこと。〉
- (68) やっほう、やっほう。  
 ○o:i./オーイ!
- (69) ふれえ、ふれえ、白組。  
 ○oka kate ɸure ɸure. ʃiro kate ɸure ɸure./赤、勝て、フレフレ。白、勝て、フレフ

\*1 それぞれの指が何を意味するのか、津堅島での調査では得ることが出来なかった。ただし、調査者の父(又吉勝豊、沖縄県宜野湾市大山出身、昭和 12 年生)によれば、親指は「松」、人差し指は「鳥」、小指は「シロアリ」を表すとのことである。

レ。

○akagumi kate kate. firogumi kate kate./紅組、勝て勝て。白組、勝て勝て。

(70)おにはそと、ふくはうち。

なし。豆まきの風習はない。

(71)べらぼうめ、とんでも無い子だ。

○je u:maku:hja./イエ (おい)、わんぱく坊主め! (この場合 [hja] がついており、とても強い表現である。少し柔らかい表現になると、次のような言い方になる。[je u:maku: ane haNro. (イエ、わんぱく坊主! こんなことしないよ!)] また、叱り方としては [ʔjahja nu:saga. (おまえ! 何するか!)] などの表現もある。)

(72)それみたことか、わんぱく坊主。

○ju:ʃʃitajaha:. u:maku:/ざま見ろ! わんぱく坊主! (〔ju:ʃʃitajaha:hja: ʔu:nu i:je kikaNgutu. (ざま見ろ 1 人の言うこと聞かないから)〕) というように [hja] をつけた表現もある。

(73)ざまあ、みろ。いい気味だ。

○ju:ʃʃitajaha:. ʔu:nu i:je kikaNgutu ʔane ru: jamaʔakuwa./ざま見ろ! 人の言うこと聞かないから、ほら、体、痛めたさ。(72)と(73)の回答はどっちでもいいとのこと。また、ほとんど使わないが、「いい気味だ」にあたる言葉として、[i:ba:jaha] という表現がある。しかし、これは人を傷つける言葉、悪い言葉として認識されており、使わないとのこと。)

(74)ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。

○ʔe: nu:hjaN go:guʃiha:guʃiʃi:ne juruhaNro:/チエー、何か、悪口いったら、許さんよ。  
〔nu:hjaNja: waNni nu:i:ga. (何なの、私に何言うか。)] という言い方もある。)

(75)このやろう。どうしてくれようか。

○ʔjahja umikuʃina:haN. ʔjahja kuruharuruje./おまえ、騒々しくてどうしようもない。おまえ、たたかれるよ。(女性の場合はもう少し柔らかな物言いで、次のような表現になる。[ʔke: umikuʃina:hana. unu ho:to na ʔasa u:tiN kikaNna:. (ツケー、騒々しくてどうしようもないな。この鳩は、もう、どんなに追い払っても聞かないな。)])

(76)たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。

○je pura:hja: ʔja:me isa:ʃiN muNi:ʃi na./イエ (おい)、馬鹿者め、あんたはどんなして、言葉言っているのか。

(77)ばかやろう、いい加減なことを言うな。

○je pura:hja manimanina:N panaʃi i:ʃi/イエ (おい)、馬鹿者め、いい加減な話して。(76)と(77)の表現は同じような表現であり、どちらを言ってもかまわないとのこと。また、少し若い人(50代くらい)は、次のような言い方もする。[pura:hja: za:mamuni:ʃi. 馬鹿者め、おかしなこと言って。]しかし、70代の人たちは、[za:mamunisun]は「寝言を言う」という意味であり、「ふざけたこと言う」「いい加減なこと言う」という意味では用いないとのこと。



(78) あなかま、静かにしなさい。

○je juŋgaʃima:nu kaʃimaha:nu damaʃukani./イエ (おい)、かしましい、やかましい、  
だまらないね!

(79) いいいっ、静かにして!

○ʃi:/シー! 〈唇に人差し指を当てる動作を伴う。〉

(80) ちちんぷい、蛙、蛙、生き返れ。

なし。ただし、日本国語大辞典によれば、「ちちんぷいぷい」は「ちちんぷいぷい御世の御宝」の略であり、「幼児が転んだり、ぶついたりして体を痛めたときに、痛む所をさすりながら、すかしなだめること。また、そのときに唱えることば。」とある。そこで、このような場合の表現を聞いたところ、次のような表現が聞かれた。

○jamaNro: jamaNro:/痛くないよ、痛くないよ。このように言いながら痛めたところをさするとのこと。

(81) あっかんべい、鬼さん、こちら。

○Nme:/ンメー! 〈[Nme:hja:] という言い方もあり、[Nme:] より荒い感じである。また、目の下を指で引っ張るような仕草をすることはなく、ただ、舌をつき出すだけである。〉

(82) あっばれ、お見事。立派です。

○ʃitai ʃitai. ʔjaga i:ba:ni Nʃutaha:na./やった! やった! あんたが いい塩梅に見てたよ。

(83) でかした、でかした。日本一。

○ʃitai dikirasaNja./やった! できた! 〈[ʃitaihja ju:dikirasaNja]ともいい、[ʃitai dikirasaNja]よりも喜びの度合いが大きい。〉

(84) っけい! すみません。

○ʔke: takke:raʃina:ha. buri:habitaN./ッケー (あら)、こぼしてないよ。すみませんでした。

(85) あばよ、達者でな。

○mataja: kanatakijo:na./またね、元気でね。

○ʔaba mataja:/そしたら、またね。

### III. 総括 (まとめ)

自己の自発的な行動を立ち上げるとき、「嫌だ」「したくない」「疲れた」などの負の要素を持つ感情を表す場合、[ha:] [hage:] [hage:na] [age:] [age:na] などが使われる。共通語にすれば、「はあ」「はあもう」「ああもう」にあたると考えられる。また、驚きやあきれ、感心などの感情表現には [ʔke:] が用いられる。[ʔke:] は人により、また、状況により、様々な表現のバリエーションがある。たとえば、[ʔkekke:] [a ʔke:] [a ʔke:i] などがある。そのほか、[ʔo:] というのもあるが、[ʔke:] とそのバリエーションの表現がよく用いられる。

他者への働きかけの場合、呼びかけには「[je] イエ」から立ち上がることが多い。そのあとに、具体的に「[?ja:me] あなたは」と続く。また、怒ったり、叱ったりするときには「[pura:hja] 馬鹿者め」「[u:makuhja] わんぱく坊主め」というように続くが、すぐに [?ja:hja] と言いだめることもある。このとき、[hja] が後続することが目立つ。憤りや怒りの感情、相手をののしる感情が込められ、荒い表現となると考えられる。喧嘩のときや言い合いのときなどには [nu:gahja/何か] [nu:hjaNja:/何か] などの表現で言い返すことが多い。つまり、喧嘩や言い合いの場面では、怒りや憤りなど感情が激しくなるので、[hja] によって、荒々しさを出しているのである。しかし、[hja] が後続するからといっても、必ずしも荒い表現になるとは限らないようである。(6) しめた! 今度の魚は大きいぞ。では、[?itehja: sarumuN./しめた! やった!] という表現があり、(83)でも話者の説明の中に、「[[?itaihja ju:dikirasaNja]ともいい、[[?itai dikirasaNja./やった! できた!] よりも喜びの度合いが大きい。」とある。すなわち、[hja] は感情をより強く表す働きを持っていると考えられる。

さらに、応答表現において、承諾の場合にもいくつかの表現が見られる。また、敬称の場合と卑称の場合とで表現が異なる。

卑称	i:i: o:o: N: N:N:
敬称	u:

そのほか、よく聞かれた立ち上げ詞として [to:to:] [to:] [na:] などがある。(48)や(55)の例があり、[to:to:] [to:] は他者への働きかけの場面でよく使われ、相手に何かを促すときに用いられると考えられる。一方、[na:] は共通語でいうところの「もう」にあたる考えられ、自己の行動を立ち上げるために、自己に向かって発せられるときによく用いられる。(2)や(7)の例に見られる。

本調査をしてみて、立ち上げ詞にはある程度の規則があることが伺えた。しかし、一方で、一つの立ち上げ詞に、いくつかの表現があること(上記に挙げた承諾表現など)、後続する音韻によって、いろいろなバリエーション ([?ke:] [?kekke:] [a?ke:i] など)があることが分かった。それらが感情の度合い、性差などを生み出しているのであろうと思われる。

最後に、立ち上げ詞の調査にはこれからの言語研究の可能性や拡がりを考えさせられた。(70)の節分の日の厄払いの文句の項目において、津堅島には節分の行事がないので、「なし」とせざるを得なかった。風習や風俗に関わる表現は、その風習や風俗の有無や、あるいはそれにかわる風習、風俗とともに調査しなければならないだろう。また、(5)の「くわばらくわばら」の項目では、沖縄における精神構造や、肉体と魂との捉え方を考慮しなければならないものであった。そう考えると、立ち上げ詞は、感情由来のもの、社会生活のなかで生まれたもの、精神や宗教にかかわるものとして、再整理することもできるのではないかという可能性を秘めた調査であると思われる。

(またよし さとみ 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期)